

第 53 回睡眠呼吸障害研究会報告

2016 年 3 月

第 53 回睡眠呼吸障害研究会が東京都港区の品川インターシティホールで開催されましたので概要を報告します。今回のトピックスは、高度肥満の睡眠時無呼吸症候群患者に対する外科的肥満手術（胃部分切除）が報告されたことです。このプロジェクトには岩手医科大学を中心として九州大学、産業医科大学、新潟大学（！）、千葉大学、福島医科大学、昭和大学、順天堂大学、奈良県立医科大学といった多くの施設が参加しております。

今回の報告では、既に 32 症例を行い、どの症例も大きな副作用もなく、順調に経過しているとのことでした。やはり、減量により、上咽頭気道の拡大が生じ、結果として睡眠時の無呼吸が減ることがわかりました。と言っても、顎骨にも原因がある患者は減量しても完全に治癒することは難しいため、どうしてもマウスピース治療が必要になるようです。

楽しみにしていた千葉大学呼吸器内科教授、巽浩一郎先生の特別講演では、私が大学院生時代に研究していた呼吸の化学調節に関する新しい知見を教えてくださいました。炭酸ガス刺激は末梢でも中枢でも呼吸を刺激するが、低酸素刺激は末梢では呼吸を刺激しても中枢では呼吸を抑制してしまうといった、新潟大学を離れしばらくアカデミックな研究から遠ざかっていた私にはトリビアとも思えることを教えてくださいました。